

東北地方 1か月予報

(6月15日から7月14日までの天候見通し)

平成14年6月14日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

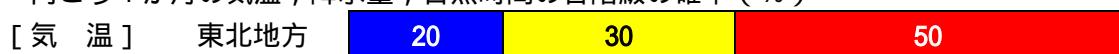
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとあります。

梅雨前線や低気圧の影響を受けやすく、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量と日照時間は平年並の見込みです。

週別の気温は、1週目、2週目は平年並、3~4週目は高い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 6月15日(土) ~ 7月14日(日)

1週目 : 6月15日(土) ~ 6月21日(金)

2週目 : 6月22日(土) ~ 6月28日(金)

3~4週目 : 6月29日(土) ~ 7月12日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は6月21日

3か月予報：6月20日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	18.7	186.9	132.4	17.5	18.1	19.4
新庄	20.1	186.6	130.7	19.0	19.5	20.7
若松	21.2	166.7	138.0	20.2	20.6	21.9
深浦	18.9	134.6	166.1	17.4	18.3	19.7
青森	18.6	94.6	168.2	17.2	18.0	19.4
むつ	17.1	124.9	144.7	15.8	16.4	17.9
八戸	17.6	120.3	154.7	16.3	16.9	18.4
秋田	20.4	177.2	157.3	19.2	19.9	21.1
盛岡	19.6	148.9	131.9	18.4	18.9	20.2
宮古	17.5	145.3	127.7	16.3	16.8	18.3
酒田	20.8	186.5	152.9	19.6	20.2	21.5
山形	20.9	140.6	131.7	19.8	20.2	21.6
仙台	19.7	177.1	108.2	18.5	19.0	20.4
石巻	19.1	142.1	126.8	17.9	18.4	19.8
福島	21.2	154.5	111.7	20.1	20.4	21.9
白河	19.8	204.2	104.7	18.6	19.0	20.5
小名浜	19.7	168.2	121.8	18.5	19.1	20.3

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはあります。下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.4	88~ 115	91~ 109
東北日本海側	-0.5~+0.3	83~ 110	92~ 106
東北太平洋側	-0.6~+0.5	86~ 110	88~ 113

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.5	-0.6~+0.5	-0.6~+0.5
東北日本海側	-0.6~+0.4	-0.5~+0.5	-0.5~+0.6
東北太平洋側	-0.6~+0.5	-0.6~+0.4	-0.7~+0.5

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年6月14日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(6月15日~7月14日) :

梅雨前線や低気圧の影響を受けやすく、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

1週目(6月15日~6月21日) :

期間の初めは気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多いですが、その後は高気圧に覆われ概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(6月22日~6月28日) :

梅雨前線や低気圧の影響を受けやすく、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(6月29日~7月12日) :

梅雨前線や低気圧の影響を受けやすく、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

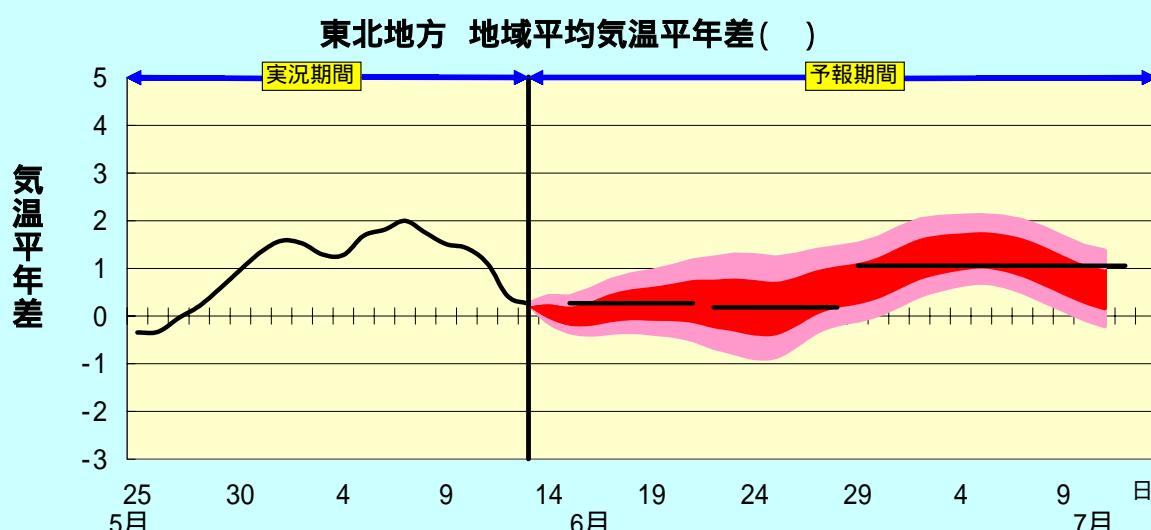
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	11.4日	3.2日	2.7日	5.5日
東北太平洋側	9.6日	2.7日	2.1日	4.8日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目は「平年並」、3~4週目は「高い」を予測している。予報は、1週目、2週目、3~4週目とも数値予報どおりとする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。

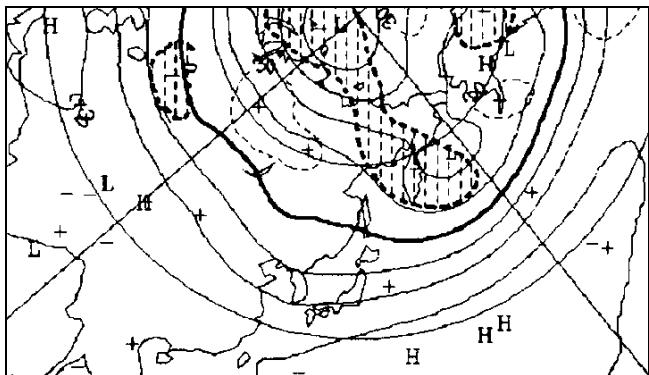


* 実況期間(図の左側)の太い実線：東北地方地域平均気温平年差の実況値。（7日平均値）

* 予報期間(図の右側)には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示

* 水平な3本の実線：予報期間の1週目、2週目、3~4週目についての多数の平均。

3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

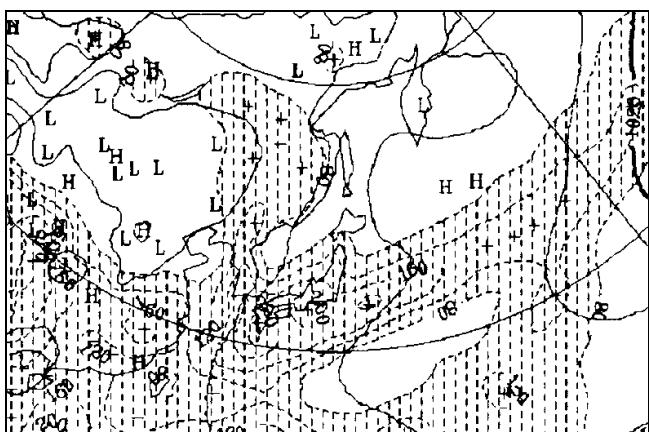


月平均の 500hPa 高度・偏差
等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差

500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極東域は広く正偏差域。朝鮮半島付近が気圧の谷。一方、シベリア付近は気圧の尾根となる。

週別（図略）では、1週目はカムチャツカ半島から日本付近に負偏差域が広がるが、2週目以降、極東域全域で正偏差となる。また、2週目に東経 90 度付近にあった気圧の尾根は、3~4週目にはシベリア付近に進んでくる。



月平均の地上気圧と降水量
等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上

地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本付近は低圧部で梅雨前線に対応する凝結域が帯状に広がる。一方、オホーツク海は高圧部となっている。

週別（図略）では、1週目は、月平均より南側に帯状の凝結域がかかる。2週目は、凝結域の広がりは月平均とほぼ同様だが、まとまりは弱い。3~4週目の凝結域は月平均と同様で、西日本でまとまつてくる。

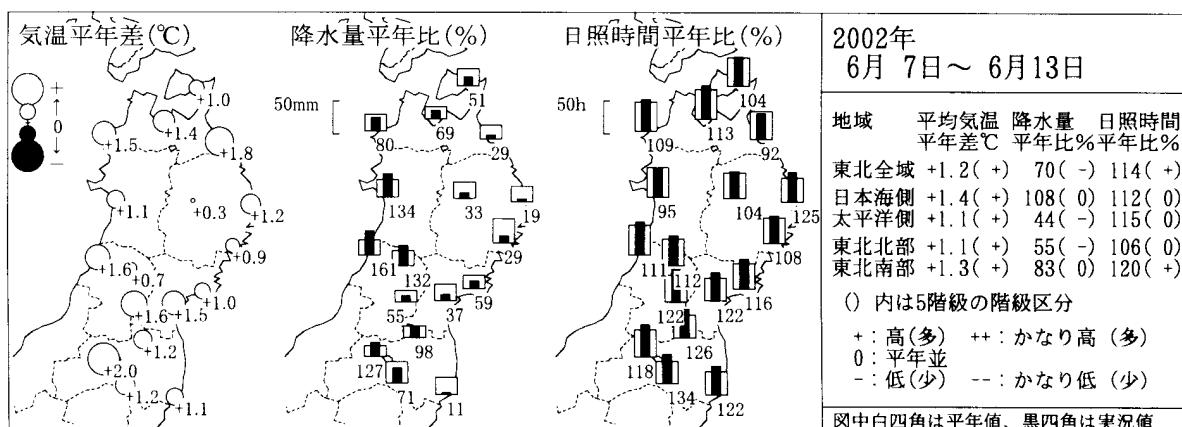
4. 最近1週間（6月7日～6月13日）の天候の経過

前半は、気圧の谷の影響で一時雨となつた他は、高気圧に覆われ概ね晴れた。8日は気温が上がり、各地で真夏日となつた。

11日以降は、梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かつた。東北太平洋側では冷たい東よりの風の影響で気温が低くなり、青森県の下北、三八上北や岩手県の沿岸北部には低温注意報が発表された。

なお、東北南部と東北北部は6月11日頃に梅雨入りしたとみられる。（ただし、この梅雨入りの時期は暫定値であり、後日検証により確定されます。）

平均気温は、東北地方で平年差+1.2 と高かつた。降水量は、東北日本海側で平年比108%と平年並、東北太平洋側で平年比44%と少なかつた。日照時間は、東北北部で平年比106%と平年並、東北南部で平年比120%と多かつた。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）